

特定非営利活動法人 野生動物救護の会 会報



# RUNNER

Vol. 8



## 目次

2009 年度総会の報告 .....	2
今日の RUNNER .....	4
活動の現場から .....	6
RUNNER 通りの住人たち .....	8
オーストラリア・ボランティア奮闘記 .....	10
鳥見旅 .....	14
ボランティア雑感 .....	15
インフォメーション .....	16

## 2009 年度特定非営利活動法人野生動物救護の会通常総会

平成 22 年 6 月 27 日(日)13 時より神奈川県自然環境保全センター新館レクチャールームにおいて会員総数 113 名中出席数 85 名(本人出席 36 名、委任状出席 49 名)で総会が開催されました。

議長三輪早見で議事に入り、まず平成 21 年度財産目録、収支計算書、貸借対照表の内容報告、質疑応答を行い満場一致で承認されました。続いて平成 21 年度の事業活動報告及び来期の予定としてイベントの案内、羽根標本作成会・探鳥会の紹介、会

報誌 RUNNER メール配信の案内等がそれぞれの担当者から示されました。

50 人ほどの参加会員からは「予算も経費同様、明確化してほしい」「会報誌 RUNNER メール配信に大賛成」等の意見が出ました。

また、総会後の特別講演として佐藤信敏氏による講演会「野鳥の撮り方」と高橋恵氏による「秦野市立図書館における衝突調査の報告」があり、参加者は興味深そうに聴き入っていました。



総会の様子



総括環境教育 渡辺理事長

### 2009 年度 野生動物救護の会 活動記録

(詳細はウェブサイト参照: [http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/katudou/media3/2009\\_katudoukiroku.pdf](http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/katudou/media3/2009_katudoukiroku.pdf))

実施日時	内容	実施場所
2009年 4月6日	会報誌RUNNER vol.4 発行	厚木市ボランティアサポートセンター等
4月11日	Mプロジェクトトビ10羽ノスリ2羽の定期体調確認	神奈川県自然環境保全センター
4月12日	イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン贈呈式(¥61,600)	株式会社マイカル厚木サティ
4月18日	羽根標本作製	神奈川県自然環境保全センター
4月18・19日	「海ゴミ、GOME!」展	野毛山動物園日だまり広場
4月21日	環境教育「ボランティア論(野生動物救護の現状と救護ボランティア)」講演 ジロー、ハリー参加	東京農業大学厚木キャンパス
4月25日	第4 回スキルアップ勉強会開催	神奈川県自然環境保全センター
4月28日	衝突調査	秦野市立図書館
4月29日	チョウゲンボウ(だるま)公開放野	神奈川県自然環境保全センター
5月14日	環境教育清水小学校5年生5クラス「七沢にすむ生き物たち」講演 ジロー、ハリー参加	厚木市七沢自然ふれあいセンター
5月16・17日	野生動物救護ボランティア講習会	神奈川県自然環境保全センター
5月23・24日	東京バードフェスティバル2009参加 ルンバ参加	東京港野鳥公園
5月28日	衝突調査	秦野市立図書館
5月30日	第5回スキルアップ勉強会	神奈川県自然環境保全センター
6月5日	新本館開所式参加・知事との懇談会	神奈川県自然環境保全センター
6月13日	A室改修作業	神奈川県自然環境保全センター
6月20日	羽根標本作製	神奈川県自然環境保全センター

6月26日	衝突調査	秦野市立図書館
6月27日	特定非営利活動法人野生動物救護の会第2回定期総会	神奈川県自然環境保全センター
6月27日	佐藤信敏特別講演「レンズがとらえた つばめの秘密」	神奈川県自然環境保全センター
6月27日	第6回スキルアップ勉強会開催	神奈川県自然環境保全センター
7月1日	G2ハウス建設開始	神奈川県自然環境保全センター
7月14日	環境教育「はだのエコスクール<動物と仲良くなるう>」ジロー、ハリー参加	秦野市立西小学校
7月19日	新人ボランティアさんを迎えての交流会	神奈川県自然環境保全センター
7月19日	WRV神奈川支部リハビリテーターとの交流会	神奈川県自然環境保全センター
7月20日	会報誌RUNNERvol.5 発行	厚木市サポートセンター等
7月22日	衝突調査	秦野市立図書館
7月25日	フィールドスタッフミニ観察会傷病舎案内	神奈川県自然環境保全センター
8月2日	フィールドスタッフミニ観察会傷病舎案内	神奈川県自然環境保全センター
8月7日	神奈川県野生動物救護協議会参加	神奈川県庁
8月22日	フィールドスタッフミニ観察会傷病舎案内	神奈川県自然環境保全センター
8月26日	衝突調査	秦野市立図書館
9月20日	「海ゴミGOME!」展展示・「海ゴミGOME!」展1DAYイベント開催	横浜海の公園
9月26日	フィールドスタッフミニ観察会案内	神奈川県自然環境保全センター
10月4日	ボランティア研修会開催 講演「樹洞にくらす生き物たち」(神奈川県立生命の星・地球博物館、広谷先生)「ハクトウワシに会えた アメリカ野生動物救護現場から」(高橋恵)	神奈川県自然環境保全センター
10月4日	フィールドスタッフミニ観察会傷病舎案内	神奈川県自然環境保全センター
10月12日	動物フェスティバル神奈川2009in ふじさわ参加	藤沢市民会館
10月24日	羽根標本作製	神奈川県自然環境保全センター
10月24日	フィールドスタッフミニ観察会傷病舎案内	神奈川県自然環境保全センター
10月27日	衝突調査	秦野市立図書館
11月1日	2009あつぎ環境フェア 未来に残そう厚木の自然 参加	厚木市中央公園
11月6日	オオタカ公開放野	相模川
11月7・8日	2009ジャパンバードフェスティバル参加	千葉県我孫子市手賀沼親水公園
11月27日	衝突調査	秦野市立図書館
11月28日	羽根標本作製	神奈川県自然環境保全センター
11月28日	フィールドスタッフミニ観察会傷病舎案内	神奈川県自然環境保全センター
12月6日	玉川公民館野外施設見学会案内 ボーイスカウト伊勢原師団案内	神奈川県自然環境保全センター
12月13日	ボーイスカウト講演「神奈川県の野生動物救護の現状」(佐藤友哉)「野生動物救護の現場」(高橋恵)「野生動物とのつきあい方」(安井啓子) ルンバ、ハリー、ジロー参加	戸塚法人会館
12月19日	傷病舎大掃除&豚汁大会開催	神奈川県自然環境保全センター
12月23日	会報誌RUNNER vol.6 発行	厚木市サポートセンター等
12月25日	衝突調査	秦野市立図書館
2010年 1月23日	フィールドスタッフミニ観察会傷病舎案内	神奈川県自然環境保全センター
1月29日	衝突調査	秦野市立図書館
2月2日- 5月22日	企画展示「人のくらしのかげで傷つく動物たち」	神奈川県自然環境保全センター
2月13日	探鳥会開催	酒匂川
2月20日	フィールドスタッフ養成講座講演「野生動物とのつきあい方」(安井啓子)	神奈川県自然環境保全センター
2月26日	衝突調査	秦野市立図書館
2月27日	フィールドスタッフミニ観察会傷病舎案内	神奈川県自然環境保全センター
3月21日	ジャパン・ラプター・ファウンデーション施設見学・打ち合わせ	神奈川県自然環境保全センター
3月24日	衝突調査、衝突調査についての秦野図書館との打ち合わせ	秦野市立図書館
3月27日	フィールドスタッフミニ観察会傷病舎案内	神奈川県自然環境保全センター



# 今日のRUNNER



第八走者：野鳥のヒナたち

ここでは保全センターに運び込まれた傷病鳥獣について保護記録やエピソードを交えてご紹介します。

## 春はまだ？

今年の春はいつまで経ってもなかなか暖かくならず、気温の低い日が続いていました。気象庁によると、例年より4月の平均気温は約2℃、最高気温は約4℃も低かったそうです。そのせいか、保全センターに保護される動物たちの様子も例年と異なるものでした。

いつもなら4月ごろには保護され始めるヒナたちですが、今年は4月にはまったく保護されて来ず、5月8日に保護されたスズメのヒナ（No.100097）が2010年のヒナ第一号でした。その後、ヒナが次々と保護されていますが、そのヒナの様子も少しいつもと違うようです。



2010年5月8日 今年のヒナ第一号（スズメ）

## ストレスライン

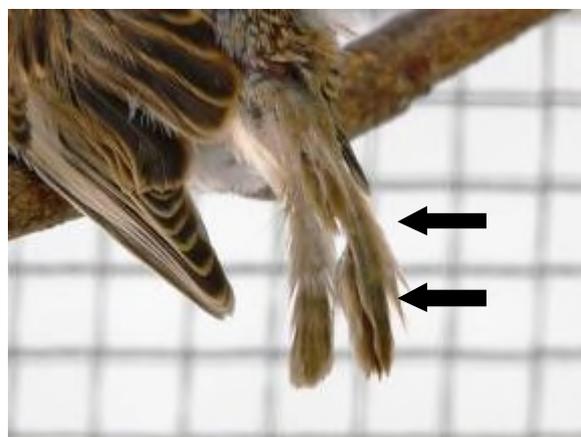
いつもより遅く保護され始めたヒナたちですが、例年では見られないストレスラインを現す羽を持つヒナが、特にスズメで多く見られました。

ストレスラインとは、羽の成長期に栄養不良などのストレスがあるとあらわれる羽の変化です。ストレスを受けた時期に作られた羽の構造は弱く、簡単に摩擦するため横縞のように見え、バサ

バサしています。

また、スズメのヒナは例年より小さく、体重も軽いです。これらは皆、春の天候不順のせいなのでしょうか。職員さんも首を傾げています。

そこで今回、ヒナの保護時期・スズメのヒナの体重について、去年のデータと比較しながら分析していきたいと思います。

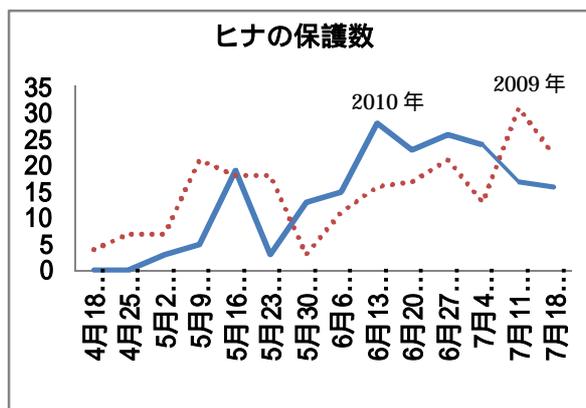


ストレスライン（スズメの尾羽：縞状になっている）

## 疑問を解消？

### < 第一の疑問 保護時期 >

去年のヒナ第一号は、2009年4月18日でした。今年に比べると約2週間も早いですが、例年4月下旬頃に保護されるようです。以下が今年と去年の保護数のグラフです。



図鑑 NO.8

・スズメの子育て

- 2月 オスがさえずり始める。
- 3月 交尾。瓦の下、煙突の中など様々なところに巣作りをする。
- 4月 卵を4~6個産み、オスとメスが協力して温める。12日でヒナがかえり、生まれてから3日目で羽が生えてくる。  
1週間経つと目が開き、頭や背中  
は黒っぽい色になる。  
2週間で体重は20gを超え、巣立ちの  
時を迎える。

- 5月 巣立ち。巣から出てから7~10日間、ヒナは親からエサをもらいながら、様々なことを教わる。この間はうまく飛ぶことができず、エサもうまく取ることができない。  
ひとりで生活できるようになると、親の元から離れていく。

参考文献

・国松俊英『スズメの大研究 人間にいちばん近い鳥のひみつ』(2004、PHP 研究所)

いずれのグラフにも山が二つありますが、初めの山は2010年の方が遅い時期にあることがわかります。それは先ほども示したとおり、4月の気温が低かったことが原因だと考えられます。

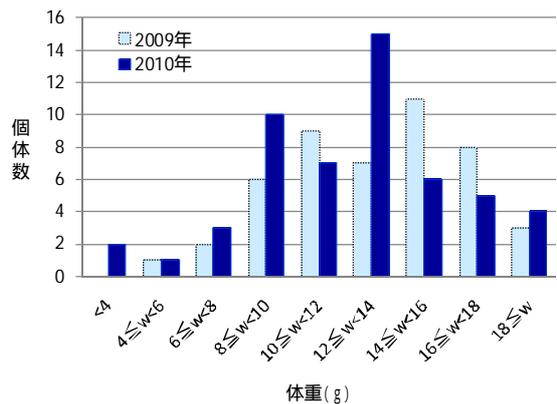
逆に二番目の山は2010年の方が早く、一概には言えませんが、急に気温が上がったことが原因の一つとも考えられます。

<第二の疑問 スズメの体重>

「今年のスズメのヒナはいつもより小さい」と職員さんは声をそろえて言います。では、それは本当のことなのでしょうか。

そこで、2009年と2010年のスズメのヒナの体重をグラフにしました。グラフを比べてみると、2009年のスズメのヒナの体重は約14~16gに集中しているのに対し、2010年のスズメのヒナの体重は約12~14gと低い値に集中しています。これは2009年に比べ、全体的に体重が軽いヒナが多いことを示しています。

また、平均体重は2009年が約13.2gに対し、2010年は約12.2gと約1gも軽いです。人間にとってはわずかな差ですが、スズメにとっては大きな差です。



今回、「いつもと違う」と言う職員さんの言葉から始めた分析でしたが、示した通り、例年とヒナの様子が異なることがわかりました。

このようなわずかな動物の変化は毎年様々な動物が保護される、保全センターだからこそ察知できる自然の変化かもしれません。

# 活動の現場から



このコーナーでは普及啓発活動やイベントなどに参加したボランティアがその体験をもとにレポートしています。

## 平成 22 年度ボランティア講習会

平成 22 年度ボランティア講習会が神奈川県自然環境保全センター・神奈川県獣医師会・野生動物救護の会の3団体共催で5月15-16日の2日間にわたり開催されました。募集人数30名のところ、多数の応募があり64名の方が受講しました。

1日目と2日目前半は野生動物と向き合うための知識を学ぶ講義、2日目午後は実習、なお昼休憩の時間は講義中に「猛禽のりハビリ」として日々の訓練を紹介されたチョウゲンボウの公開放野を行いました<sup>1</sup>。受講者は8月末までに3日間の実習を終え神奈川県の「野生動物救護ボランティア」として登録されます。



講習会中に行われたチョウゲンボウの公開放野



長期飼養中のコミズクモスタッフとして参加

## TBF(東京バードフェスティバル)

5月28-29日に東京港野鳥公園にて開催されたTBFに参加しました。TBFのテーマが「衝突」だったこともあり、当会のブースでも写真やポスター

などを用いて「衝突」を紹介しました。また、実際に衝突したため野生に帰ることができず長期飼養となっているツツドリが参加しました。実物を見ると被害の悲惨さを認識しやすいようで、ツツドリの説明に足を止める客が多くいました。

## 探鳥会 in 丹沢札掛

6月13日、丹沢札掛において探鳥会を行いました。当日は天気にも恵まれ、探鳥日和。この時期は段々と木の葉が空を覆って行き野鳥観察はしづらいですが、色鮮やかなキビタキやオオルリなど夏鳥も渡ってくるので是非その姿を拝見したいものですね。

### 今回見られた鳥たち

オオルリ・アカゲラ・アオゲラ・コゲラ・ホオジロ・キセキレイ・ハシブトガラス・トビ・シメ・ヒヨドリ・ウグイス・センダイムシクイ・ヤマガラ・ミソサザイ・クログミ・キビタキ・ヒガラ・キクイタダキ・カケス・アカショウビン・ヤマセミ・ツツドリ・イカル・アオバト・アカハラ・シジュウカラ・ホトギス・メジロ

## 秦野市役所環境保全課支援事業

6月15日、「はだのエコスクール」に呼ばれ、秦野市役所の方と一緒に6年生17名へ講演を行いました。テーマは「人の暮らしの陰で傷つく野生動物たち」。エデュケーション・アニマルとして、長期飼養中のタヌキ、ノスリとコミズクが登場し、生徒達を沸かせました。身の周りで起きている事について考えてもらうきっかけとなりました。



スタッフと長期飼養中のタヌキ「ひめこ」

<sup>1</sup>詳しくは M プロジェクト参照  
(<http://mprojectsakura.blog113.fc2.com/>)

## 🐦 通常定期総会+特別講演会

6月27日、21年度分総会が行われました(詳しくは本紙 p.2-3 参照)。また、総会後の特別講演として佐藤信敏ボランティアによる講演会「野鳥の撮り方」と高橋恵ボランティアによる「秦野市立図書館における衝突調査の報告」が行われました。なお佐藤氏はプロカメラマンで、5月に著書が発行されました。

### 佐藤氏の著書のご紹介

エコ育絵本 ちきゅうの なかまたち  
「つばめのくるまち」(写真:佐藤信敏、  
文:深山さくら) 出版社:チャイルド本社  
<http://www.bk1.jp/product/03253793>



## 🐦 羽根標本作製

「羽根標本作製」では標本作製と同時に羽根の特徴や計測方法も勉強します。22年度に開かれた羽根標本作製の概要は次の通りです。

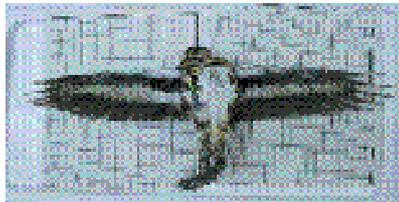
- 第一回 5月9日 オナガ・シロハラ・バン(幼鳥)
- 第二回 6月12日 カワセミ・アオバト・トラツグミ
- 第三回 7月11日 メジロ・ハクセキレイ・ツグミ・ムクドリ(2羽)

### 参加者の声

カワセミってとてもキレイな鳥ですよね？でも羽根1枚1枚は意外と地味だったりします。たった羽根1枚から発見できる事も案外多いものです。山で羽根を拾った時にその羽根の特徴を見るだけで鳥の種類が判別できたりします！そんな鳥の羽根の魅力に気づける良い機会でした。次回も是非参加したいです！

## 羽根図鑑用 計測データ

**スズメ目ツグミ科  
トラツグミ**  
学名: *Zoothere dauma*  
英名: White's Thrush  
羽根の特徴  
全体的特徴のはっきりした目立つ羽根が多い  
■初列風切羽10は極端に短い  
■ツグミ属の尾羽は12枚だがトラツグミのみ14枚  
■ツグミ属の尾羽は12枚だがトラツグミのみ14枚


記録記録				
採集日	2021年 9月 11日	採集場所		
採集者	(名)	死亡時体重	(g)	
生年月日	2021年 9月 29日	死亡原因		
計測データ				
体長	201.5(mm)	作製者	富田 早輝	
翼長	117.5(mm)	尾長	68.0(mm)	
嘴長	29.0(mm)	嘴幅	18.4(mm)	
尾長	104.0(mm)	尾幅	33.0(mm)	
尾羽長	33.0(mm)			
各部の羽根枚数				
初列風切羽	左: 10	右: 10	二列風切羽	左: 9
次列風切羽	左: 6	右: 6	尾羽	左: 6



鷲、Common buzzard、*Buteo buteo*  
タカ目タカ科ノスリ属

### ノスリってどんなヤツ？

ノスリはトビほどではありませんが、野外でも比較的良好に見られる猛禽類の一種です。保全センターの野外施設を散策していて、上空をスーッと飛んでいく姿をたまに見られると、「お、ノスリだぁ~ちょっと見れてラッキー」なんて思ったりもするのに、サシバなどの渡りを見に行った時や、前回の「RUNNER」で紹介されたチュウヒ目当てで行った渡良瀬遊水池では、沢山いるノスリに「なんだぁ~またノスリかぁ~」などと思ってしまったり...

そんなノスリは背中側が地味~で薄茶色の、トビよりちょっとちっちゃいやつといった感じですが、飛んでいる姿を下から見ると、白いお腹に一本、腹巻のように茶色い帯が通っているのが分かります。飛ぶといえば、ホバリング(その場で羽ばくこと)した後スーッと滑空していくのがノスリの飛び方の特徴です。

虹彩の色は茶色く、眼が大きく見えるので、オオタカなどと比べると結構穏やかそうな顔をしています。

食べ物は虫やカエル、ヘビ、ネズミなどの小型哺乳類や鳥など様々です。

繁殖期には縄張りを持ち、樹上や崖の上に 5、6

月に 2~4 個の卵を産み、ヒナは 34 日前後で孵化、孵化後 50~55 日で巣立ちます。

夏はアフリカ大陸やユーラシア大陸の亜寒帯~温帯地域で繁殖し、冬には温帯~熱帯地域へ渡って越冬します。日本では本州中部以北または四国の山地で留鳥として繁殖、それ以外では南西諸島を除き冬鳥として見られます。

### 実は混ざってるから！

保全センターにある露天 1 というフライングケージにはトビがいっぱいいることをご存知である方も多いと思います。ここにはトビが常に 10 羽前後います。...あれ？12 羽じゃなかった？って思った方、それは違いますよ~。だってその中にノスリが 2 羽混ざっているから！

もう何年もトビたちと同居しているノスリさんたち。色も一見似ているせいで、ますます存在感が薄れている気がしますね...

ただ、保全センターのノスリたちはある程度の飛翔が可能なので、大抵トビよりも上に止まっていることが多く、それも見分けるポイントとなります。



露天 1...ノスリはどれでしょう~??

### 個鳥情報

受付 No:020013

受付日:2002 年 1 月 13 日

保護場所:町田市

この子は山道の道路上にいるところを発見され、左翼角と右下腿骨の骨折が見られました。

一度ボランティアのお宅でリハビリを行いました。が、残念ながら放野には至らず、また保全センターに戻ってきました。



受付 No:060021

受付日:2006年2月10日

保護場所:湯河原市

この子は湯河原駅内の線路で発見され、電車との衝突による脳震とうが疑われました。また、左前腕骨の骨折も認められました。

この子は 013 よりも比較的地上にいてトビの中に混ざっているにすることが多いので、013 よりも見つけるのが大変かもしれません。



## 2羽の生活

前回のアオサギも食事時は変な行動をしていましたが、020013と060021も食事時は真剣。

他の猛禽類たちと違い、露天1には鶏頭の他にドッグフードやマイナーフード、パンなども配られ、ちょっとメニューが違います。何故かという、トビが多いから。トビは狩りをしない猛禽類で、色々なものを食べます。2つのお皿に盛られた色々混ざった食べ物が露天1に住む鳥たち全員の分なのです。

そんなお皿の中から、ノスリ2羽は真っ先にサーッと飛んできて鶏頭を持って行き、トビが来られない雨除けの屋根の上でいそいそと食事をします。あの2羽は自分たちが同居しているトビたちよりも飛翔能力があって、先にエサを絶対にとれると知っているのでしょうか。

とってもスマートに生きている2羽なのでした。

## ～トビとノスリの違い～

個人的に思うノスリとトビの違いは以下の通りです。みなさんはどう思いますか？

### ノスリ

- ・静かであまり鳴かない(ピーとか鳴くときもある  
そうですが、私は聞いたことがありません)
- ・単独行動が好き。あまり群れない。
- ・人の食べ物は奪わない。
- ・山の方が似合う。
- ・顔が凛々しい(特に横顔)
- ・神経質だけど、人が近づいても意外と落ち着いていれる。
- ・意外とケンカっぱやい?(カラスやミサゴとケンカしているのをしばしば見かけます)
- ・嘴と足は黄色。

### トビ

- ・よく鳴く。ピ～ヒョロロ～
- ・結構群れて、ちょっと怖いくらい。
- ・大好物は人が食べている最中のパン。
- ・海にも山にもいる・・・けど江の島ではおにぎりを持っていると思われそうで怖い。
- ・顔が可愛い(特に正面顔)
- ・人から物を奪うくせに、人が近づくとガタガタ震える。
- ・カラスには負けちゃうことが多い。
- ・嘴と足はシルバー。

ノスリとトビの違い、是非皆さんも保全センターで2種をじっくり見比べてみてください!(そして是非「RUNNER」に載せられそうな面白エピソードを教えてください～)

前ページの写真の答え：一番右端にいる子

# オーストラリア・ボランティア奮闘記

2010年3月7-20日、豪・ブリスベン周辺で行われたAJWCEF(オーストラリア日本野生動物保護教育財団)野生動物保護初級トレーニングコースに日本から獣医大生2人と会社員の私、計3名参加した。持ち回りの日記形式でお伝えする。

## 執筆者



Takae



Masumi



Tomoko



## Takae: 9 March

デビッド・フレイ動物公園にて実習。3人はそれぞれ各動物担当のレンジャーにワン・オン・ワンで同行、数種類の動物の世話をを行った。レンジャーJulianに最初に告げられた動物は...え、トカゲ？哺乳類、有袋類、鳥類を避けて、まさかの八虫類？(トカゲに失礼。)でもすぐに気を取り直しJulianについて行く。まずはミルワーム集め。あの動きがどうしても我慢できないが、Julianはさっさとどこかに行ってしまうし、カルシウムを作る機構が機能していないトカゲのため覚悟して挑んだ。ただけもうひとつ、トカゲのために集めなければいけなかったものがある。Julianの後について八虫類部屋の隅に置かれた箱を覗く。中でうごめく影。「こっ...こっくるーち？」おそろおそろJulianにたずねる。「Yes」。Julianは平気な顔でゴキブリを手掴みしていく。ここで私の思考中枢がやられたらしく、無心で茶色の物体を掴み始めた。この時、世界観が変わった。



## Tomoko: 10 March

朝、絶滅危惧種リッチモンドバードウィングチョウのお世話。日本の昆虫にとっては生息地の減少や外来種の侵入に加え、昆虫愛好家の乱獲が深刻な問題らしいが、レンジャーのJackieは「ここでは何よりも生息地の減少が問題なの。」と言っていた。

午後はツメオワラビーを捕まえて寄生虫駆除薬を投与。度外れの脚力で跳び回るところを網でバサッと行く。パニックのあまりフェンスに激突して口から出血する個体まで...。(保全センターの猛禽類を捕まえる様子に似ていた。)

木登りカンガルーをアボカドサンドイッチで誘惑し体重測定。ガマグチヨタカにさし餌。保全センターで鍛えられた「さし餌ワザ」、世界に通用！レンジャーに褒められちょっと得意げな私。それにしても鳥がバラエティー豊富！逃走距離0メートル、ユーモラスなワライカワセミ。襲われたレンジャー続出、凶暴なヒクイドリ。襲われた方々に申し訳ないけど、隠れファンです、私。このベッカムヘッド！中は蜂の巣構造で音波を受信できるって！熱帯雨林の種子にはヒクイドリの胃液に刺激されてのみ発芽するものがあるとか！夕飯のフィッシュ&チップスを狩猟採集しに出かけた私たちがどれだけ騒いでも声がかき消されるほど何万羽ものレインボーロリキートのねぐら。派手さや世間話の威圧感関西のオバちゃん顔負け。

宿に帰ってからは持ち帰ったコアラの糞でひたすら実験。茹でる・すりつぶす・漂白する、など様々な試行錯誤。

写真、上から順：ゴールドコースト交差点に立つポール、ヒクイドリの餌、私たちの餌、オーストラリアヅル、そこら中にいるイグアナ、ワライカワセミ、ヒクイドリ、ガマグチヨタカ、コアラ

## Tomoko: 11 March

今日は噂の Julian 素手道場。奈落の底から沸き上がってくるザリガニ・ミミズの死骸をすくい続ける。間を逃げ惑う小魚がかきまぜ、屍が生きているかの様な動きに背筋が凍りそう。そして窓や底石をひたすら磨く...それはカモノハシの水槽清掃という名の修行。

清掃終了後、Rosie 先生がおもむろにカモノハシのしっぽを掴み、逆さ吊りで触らせてくれた。雄のカモノハシは後肢に毒爪を持っていて危険。ちなみにカモノハシは非常に飼育が難しく、オーストラリア国内でも成功している施設は数える程しかないという。きれいになった水槽に、しゅうんっ！とカモノハシたちが戻ると、お客様方から拍手が沸き上がり、ちょっと鼻が高い。

今宵もコアラ糞との格闘が続く。

## Tomoko: 12 March

デージーヒルコアラセンター。午前中、Deidre という著名なコアラ研究者とコアラトラック。電波発信機を付けて放野されたコアラの様子を確認するため。1 頭目、見つからない。餌にならないマンゴーの木からシグナルは出ているのだが、発信機が外れたのか、樹上で衰弱しているのか。しかも住宅街ど真ん中の駐車場！ここブリスベンの人口増加率は世界でもトップレベルで、野生動物の生息地も猛スピードで減少中。人にもコアラにも住みやすい街になるには人間の努力がまだまだ必要そう。2 頭目は線路と幹線道路に挟まれた緑地帯、3-5 頭目はユーカリ林にいるところを速攻で見つけた。滞在中何百頭というコアラに会ったが、やはりここで見た野生の姿が一番好き。

写真、上から順:コアラの道路標識、野生のコアラ、木登りカンガルー、みんなのアイドル・ディンゴの Lanka、コアラ病院の病棟、カンガルーの 、フルーツコウモリ、リッチモンドバードウィングチョウ、コアラの爪跡

余談だが、今の携帯用技術を駆使すればマイクロチップサイズの野生動物用電波発信機を作れるのでは。ネックは資金だろうか。一緒に考えてくれる方、募集中！

午後は Sue から環境教育の話聞く。「これだけは伝えたい」というテーマを決めておくこと等、いろいろ参考になるアドバイス・資料等いただいた。

## Tomoko: 13 March

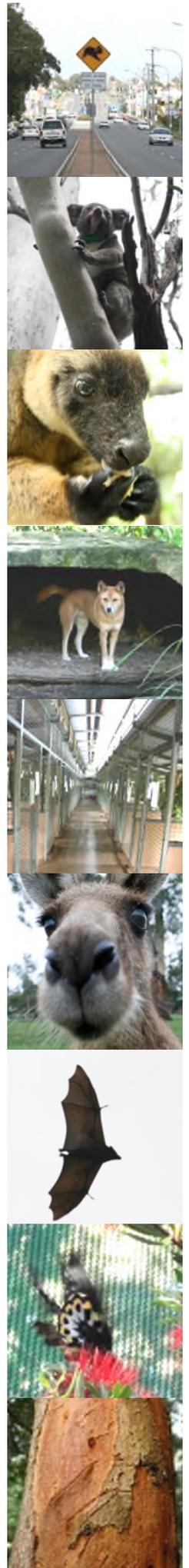
自由行動の日、私立の動物園へ行ってみた。入ってすぐ、\$マークの並ぶコアラの巨大看板にギョッとしたが、コアラを抱いた記念写真が一大収入源の様だ。水野先生曰く、動物園のコアラには犬や猫に襲われて保護された子もいて、犬臭い人に抱かれるのはコアラにとって身体的ならず心理的な負担を強いることもあるという。

さらには野生のイルカと触れ合うイベントというのもゴールドコースト地域で行われていて、そちらは人間からイルカに人畜共通感染症がうつり、大流行する恐れがあるらしい。これを知るまで私も行く気満々だった。無知って怖い。

この日、やっとコアラのウンチペーパーが完成！実は AJWCEF の収入源にしようと眼に \$マークを浮かべて作っていたのだが、名古屋市動物園が受験守りとして既に配布しているらしいと知り特許取得を断念した。でもデビッドフレイの Sue 園長を始め色々な方に喜んでもらえ、睡眠時間を削ってまで作った甲斐があったかな。

## Takae: 14 March

この日、後出モギルコアラ病院に勤める Ruth を訪ねた。彼女は病院での仕事が終わると自宅の動物の世話や





野生動物の救護活動に向かう。2 時間おきの赤ちゃんコアラへの授乳に重ね、夜中に救急で呼び出されることもあり、3 時間程しか眠れない日も珍しくないという。「これが私の生き甲斐なの。」と、精力的に働く彼女も、後継者の心配をしている姿が心に残った。実は Ruth の住むエリアにある野生動物生息地が政府による鉄道計画でちょうど真二つに分断されることになっていた。生息地の断片化を何とか阻止しようと政府に何度もはたらきかけ、コアゾーンを避けた 2km 横に鉄道を移動するよう計画変更できたという。

野生動物保護・救護は短期間でどうにかなる問題が少ない。自分には関係のないことと考えるのではなく、Ruth のように一人でも現状を変えようと努力する姿勢が大切なのだと思います。

 **Takae: 16 March**

モギルコアラ病院での実習 1 日目。病気のコアラや幼獣を野生に戻すための世話やトレーニングを行っている。職員 10 人弱のうち半数はユーカリ調達係のレンジャー。日常的なコアラの世話はボランティアが全て行う。幼獣 脳障害を持つコアラ 結膜炎のコアラ 膀胱炎のコアラの順番で世話をする。元気な子 怪我をした子 感染症をもつ子、という順に世話をする。感染症を元気なコアラに移さない工夫。

午後からは Allan 先生の有袋類講義。有袋類は未熟な状態で生まれ、自力で母親の袋の中に移動する。未熟な状態で生まれることによる先天性な障害も、後天的な危険もほとんど起こらない。また、カンガルーはその授乳形態が変わっていて、成分の異なる 2 通りのミルクを出すことができる。ジョーイ(袋の

中の子)が飲むものと成長して袋の外に出てから飲むもの。カンガルーは卵細胞分裂の調節を行ったりもする。子供が袋から出る時期になると、それまで止めていた胚の分裂を再開して妊娠する準備を整えるらしい。カンガルーは絶えず子育てができるのだ。

午後、1 頭のコアラが運ばれてきた。命名 CHOKO。初来院ということでマイクロチップを埋める。再来患者(望ましくないが)であれば、マイクロチップを読み取って過去の病歴を調べる。カルテには捕獲された場所(帰すために重要)、年齢(歯の摩耗により調べる)、体重、体長、性別、ボディスコア(肩甲骨の筋肉による)などが書き込まれた。

 **Masumi: 17 March**

結膜炎のコアラに筋弛緩剤を注射して目の掃除と目薬の投与を行った。これにより、通常はきれいにできない箇所まで投薬することが可能となり、2 日おきに行くことで 1-2 週間での退院が可能になるそうだ。午後一番でポッサムとコアラの解剖。コアラは、後腸発酵型で、なんと腹腔が盲腸で埋まっている！続いて Allan 先生によるオーストラリアの単孔類の体のつくりや繁殖についての講義。カモノハシの頭骨やコアラの胎児などの標本を見ながら、貴重な資料を壊さないように緊張しつつ、有袋類の面白さや不思議さを感じた。

講義中は水野先生の同時通訳がつくため英語が苦手な私でも講義を理解することができ、質問も難なくできる。トレーニングコース中は水野先生と Julia がジョークから専門用語まで全て通訳してくれるため安心して実習に取り組むことができた。この日も Julia の超！実用英会話。何かのカレーらしいインド

写真、上から順：デビッド・フレイ動物公園、ウォンバット、コウノトリ、コアラの救急車、コアラ病院ボランティア室、ハリモグラ、ワラビー、カモノハシ逆さ吊り、Ruth 家のカンガルー George

料理のメニューを見ながら注文の練習。住所やクレジットカード情報の伝え方など、Julia が店員役をやりながら教えてくれた。これで私も海外で出前をとれる気がしてきた。

### Masumi: 18 March

コアラの体調管理記録をつけ始める。朝夕のコアラの体調や治療状況をチェック。近くでじっくり見ると自分の担当のコアラに愛着がわき、可愛くてしょうがない！早く元気になって森に帰ってほしいという思いが募る。(帰国後、体調管理記録をつけた Noel を始め何頭かが森に帰ったという連絡を受けた。)

昼食後、事は起きた。「じゃあ、このショッピングモールで一番安い携帯電話のプランを探してきて」と笑顔の Julia。さ迷う我ら。「留学生なんです」とか言いつつ本気で説明してくれる店員さんに心が痛む。中には「さっきの子にも言ったんだけどさー」と説明をし始める店員さんも。あ、ばれたか。こうして超！実用的 Julia 英会話レッスンは幕を閉じた。

### Takae

Julia 英会話レッスンの真骨頂はなんといってもこの実地“スパルタ”訓練！5店舗程回り、店員と交渉。ある店舗では日本から持って行った携帯電話のSIMカードを抜かれ、店員さんの携帯電話のものを差し込まれるというハプニング(本当は店員さんの親切)も起きたが、体当たりで会話に挑戦するのは新鮮な刺激になった。

### Masumi: 19 March

コアラ減少の一因としてクラミジア感染症の流行が挙げられる。この日はク

ーンズランド大学の教授や学生と協力して、クラミジア感染を調べるための精液採取が行われた。感染しているコアラをそのまま野生に戻せば、クラミジアのさらなる流行を招く。生態系を守るための調査・研究の現場を垣間見ることができた。コアラ病院にはコアラ以外にもけがをした様々な野生動物が運び込まれる。この日はオーストラリアの5セント硬貨にもなっているハリモグラが運び込まれた。背中に棘があるため箱から出すのも一苦労だった。

### おわりに

あっという間の二週間ですっかりオージー色に染め上げられた私たち。近い将来また来ると固く誓いあった。このようなかけがえのない経験をした3人が、コース終了後に AJWCEF のボランティアスタッフになったことはいうまでもない。2010年10月に名古屋にて行われる COP10 に向けた活動に勤しんでいる。

### Masumi:

多くの生き物や人々と出会い、野生動物保護の現状に触れ、自分の世界が大きく広がったように思う。お世話になった方々に感謝したい。

### Takae:

軽い気持ちで参加を決めたにも関わらず、とても多くのものを得た。支えて下さった先生方、そして私との共同生活に耐えてくれた2人の仲間へ感謝！

### Tomoko:

理事の水野先生、AJWCEF のスタッフの皆様、そして私たちを受け入れて下さった各施設の関係者の皆様、仲間2人、ありがとうございました！

AJWCEF (オーストラリア日本野生動物保護教育財団)  
[http://www.ajwcef.org/top\\_japan.htm](http://www.ajwcef.org/top_japan.htm)

写真、上から順：ゴールドコースト、寝ても覚めてもコアラ？！、オーストラリア南部のコアラ、ベジーなトカゲ、コアラ病院のユーカリ倉庫、コアラ隠れ中、授乳中の木登りカンガルー、レンジャー Jeremy と娘？ Charlotte、小学校の校庭にあるユーカリ農園



# 鳥見旅

2010年7月25日(日) 今年の新人ボランティアの方々とボランティア交流会が保全センターにて行われました。その交流会が始まる午前中、初心者向けの探鳥会を開催し、保全センター周辺で身近な野鳥を観察しました。短い旅ではありますが、今回はその様子を報告します。

## 【身近な野鳥を観察しよう!!】

梅雨のジメジメした日が続いた7月の下旬ですが、探鳥会当日は、晴天に恵まれ絶好のバードウォッチング日和となりました。今回は身近な野鳥を観察しようということで、保全センターの野外観察コースを通り、日向薬師まで歩きました。

参加者は新旧ボランティア11名。全員集合したところで保全センターを出発しました。

まず最初に現れたのは、皆さんお馴染みのヒヨドリ。ピーヨ!!と大きな声で鳴き、木の枝に止まっていた。ヒヨドリは身近に観察できる一般的な野鳥で、ベテランのバードウォッチャーの方だと「なんだ、ヒヨカ...」と思われる方も少なくないと思います。(私もそうです...)

しかし、ヒヨドリは日本全土と台湾周辺にしか生息しておらず、海外のバードウォッチャーには珍しい野鳥だそうです。中にはヒヨドリを見るために日本にやって来る方もいるとか。

日本人だからこそヒヨドリは身近な野鳥に感じられるのですね。



ヒヨドリ

## 【幸せの青い鳥?】

林道の入り口付近を観察していると、小川の枝に、全身が茶色っぽくムクドリほどの大きさの鳥が止まっていました。何かと観察して悩んでいると、野鳥に詳しいベテランの方が「オオルリの幼鳥ですね」と教えて下さいました。

オオルリというとオスは青と白で、きれいな色のイメージですが、メスや幼鳥は茶色っぽく地味な色をしています。オオルリに限らず、野鳥のメスや幼鳥は地味な色が多いので識別が難しい...

じっくり観察していると、しばらくしてオオルリは枝から枝へと飛び移り、木の上へと消えていきました。次に会うのは来年の夏でしょうか。

その後も野鳥を観察しながら林道を歩き続け、正午には日向薬師に到着し、お寺の前で集合写真を撮影しました。

今回の探鳥会では、身近な野鳥をじっくり観察することができ、新人ボランティアも旧ボランティアも楽しむことができました。

今回は交流会を兼ねた近場での探鳥会でしたが、次回は新旧ボランティアで遠くへ探鳥会に行きたいと考えています。

### 確認できた野鳥

ヒヨドリ、キセキレイ、メジロ、カワセミ、ヤマガラ、ホオジロ、オオルリ(幼鳥)、キジバト、ガビチョウ、ウグイス(鳴き声)

【計10種】



# ボランティア雑感

このコーナーではボランティア歴2年目の平さんが日々の活動を通して感じたことを紹介します。

## ～ 梅雨の頃に～

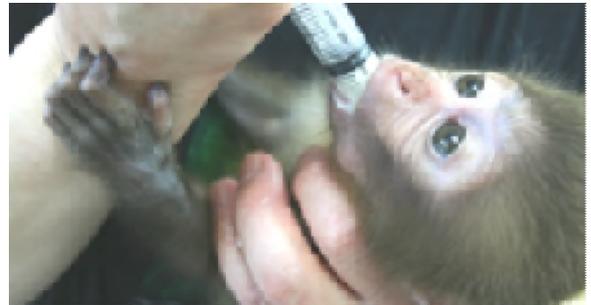
6月も中旬となり、梅雨の季節に入った。

救護されている水鳥たちも、食事を残すことが多くなってきた。大喰らいの川鶺でさえ魚を持って行っても口を開けない。いつもの通り水浴びをして、元気に見えるのだが。

挿餌を必要とするヒナ達も、例年より少ないとはいえ、おなじみさんが顔をそろえている。それに加え、ミルクを必要としている子たちもいる。タヌキが4頭、ハクビシンが1頭、サルが1頭。今までの作業に加え 9:00、11:00、13:00、15:00、最後の 16:30の挿餌に時間をとられて、時間内に作業が終わらないことが多い。あれもやりたい、これもやらなくてはと思いつつ一日が終わってしまう。

保全センタ - では救急保護と放野前のリハビリにだけ専念できたら、動物に対し満足な治療・世話ができるのではないだろうか。

アナグマじいさん<sup>1</sup>も元気になり、フライングケ - ジでの生活にはいった。ところが明朝にびっくり。地面にボコボコと大きな穴が口を開けている。以前、ミルクから大きくなったアナグマの太郎と花子が居た時も穴は開いていたが、当時の比ではない。野生の力を見せつけられた。



(写真：ミルクやりの様子)

わが家の隣のアパートに、毎年ツバメが巣を掛け子育てをしている。大きくなり飛ぶ練習をする頃になると、電線に並んで餌をもらいつつ親ツバメの後を追いかける。1日だけでは終わらない。何日か繰り返され、気がつくと大空を滑る様に飛んでいる。

自然界で生き抜くことは、大変なことなのだろう。幼くして保護されてくる動物達にも、野外生活について教えてくれる先生がいればいいのにと、つくづく思う。

<sup>1</sup> アナグマ:受付番号 100103

5/11 来院、6/17(木)FC1へ移動(6.8kg)、6/27(日)放野

# インフォメーション

## 参加イベント

### 茅ヶ崎動物フェスティバル

長寿動物表彰、講演会、コンサート、映画など動物に関するイベントです。

日時 10/3(日)

場所 茅ヶ崎市役所

<http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/kankyo/pet/14086/014431.html>

### ジャパンバードフェスティバル

千葉県我孫子市手賀沼周辺にて行われる、鳥をテーマにした日本最大級のイベントに出展します。

日時 10/23(土) 24(日)

場所 千葉県手賀沼親水広場

<http://www.birdfesta.net/>

### 厚木市 環境フェスティバル

日時 10/31(日)

場所 厚木市中央公園

### 羽根標本・骨格標本作成

日時 毎月を予定

場所 神奈川県自然環境保全センター

募集中!

毎月最終金曜日 秦野市立図書館衝突調査を手伝って下さる方を募集しています!

詳細は当会ホームページをご覧ください

## 会員へのお誘い

当会は、ボランティアスタッフの協力と設営趣旨にご賛同いただきました皆様方の寄付によって運営されております。

私たちの活動を支えてくださる賛助会員も同時に募集しています。

ボランティア会員(年会費2,000円)

一般会員:どなたでもご参加いただけます

救護会員:ボランティア講習会を受講し、野生動物救護ボランティアとして登録された方

学生会員:学生の方(年会費1,000円) <区分は上記と同じ>

賛助会員:当会の活動にご賛同いただき寄付をしていただいた方

年会費:法人一口5,000円 個人一口3,000円 一口以上

振込先 ゆうちょ銀行振り替え口座 : 00270-0-47040

名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

## RUNNER とは??

この会報のタイトル“RUNNER”には3つの願いが込められています。

救護の会が RUNNER のようにどんな困難も乗り越えて進んでいけるように

動物たちが元気に大空に飛び立ち、走り続けていけるように

タヌキのらんちゃんが天国で元気に走り回っていますように

発行月: 2010年9月 発行: 特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話: 0463-75-1830

〒259-1306 神奈川県秦野市戸川 1086 番地の 4 ホームページ: <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>

編集者 表紙絵: 高橋真理 総会: 三輪早見、武田智子 今日の RUNNER: 小松美絵

活動の現場から: 加藤わか葉 ランナー通りの住人たち: 高橋恵

オーストラリア・ボランティア奮闘記: 河口貴恵、山口真澄、武田智子 鳥見旅: 山下宏幸

ボランティア雑感: 平美也子 インフォメーション: 渡辺優子、武田智子

Special thanks 加藤千晴先生、平沼さん、佐藤友哉さん ご協力ありがとうございました